

ショートタイム

猥想短編小説集

* パソコンでご覧頂く場合

Adobe Reader (リーダー) のメニューから、

①『表示』↓『ページ表示』↓『見開きページ』を選びます。
②『表示』↓『ページ表示』↓『見開きページ表示で表紙を表示』をチェックします。

Mac (マック) の場合は『見開きページモードで表紙をレイアウト』をチェックします。

* スマートフォンでご覧頂く場合

アプリ『SideBooks』がお勧めです。

ショートタイム

猥想短編小説集

のぞく

5

変態不動産

45

専門ジム

101

週末の夕刻。まだ少し帰宅には早い時間である。これから都心で楽しむ人も沢山たくさんいて下り電車は閑散かんさんとしている。

車両の端っこに座る啓介に対面して立つ男。人の疎まばらな車両にまるで知り合いのようにぽつりと二人接近している。

啓介は閉じていた目をうつすらと開けて男を確認した。男の不自然な雰囲気違和感をおぼえゆつくりと頭を上げると、目の前にスーツボンをパンパンに盛り上げているのが見えた。周りに人がいないのをいいことに男は大胆である。

そのうちに盛り上がったズボンの先端あたりに濡れたシミが出来てきた。ぐわつぐわつと窮屈そうな太い陰茎の形に波打つ度に、シミは濃くしながら急速に広がり、膨らんで大きくなった亀頭の形がズボンの少し左側に浮き出て見えていた。小便が漏れて^もいるのではないかと思うほどにズボンの前を濡らしながらも、男は黙ってスマホを眺めている。

啓介はもう滴り^{したた}落ちるほどの濡れたシミをじつと見つめたまま、もはや視線を逸^そらすことが出来ずにいた。



男はびちよびちよになったズボンの先端をなおもぐつぐつと下半身に力を入れて内側から押し出し、亀頭のカリを浮き出させて見せた。すると濡れてダマになったシミのあたりからぶりゆぶりゆつと幾つかの小さな気泡が沸^わき出てきた。泡はシミにくつついたまま滑^{ぬめ}った液体を示すように薄い表面を光らせて留^{とど}まっていた。

啓介は堪^{たま}らず「す、すげえ」と声を出して男の顔を仰^{あお}ぎ見てしまった。もうどうにもごまかしようのない男の行為に、



あさなぎ

鉄柵の向こうから覗く青い目が良二を深い淫猥な闇の中へと墮としていく。会社では尊敬される男も誰かに見られる羞恥がやがて快感となつて自ら脚を開き肉棒を欲するように……

ゴリアテボックス

友野勇の小説

乾 颯 太 郎



淫 行 記 1

先輩とスクラムを組む度に颯太郎の中にある秘めた感情がほとばしる。決して叶うことのない男同士の愛情を求めながらも、行きずりの切なく淫靡な世界に嵌っていく。

ゴリアテボックス

友野勇の小説

挿 絵 8 枚（モノクロ）

本 編 1 6 0 項

全 項 1 7 1 項

シ ヨ ー ト タ イ ム
猥 想 短 編 小 説 集

著 者 とも の いさむ
友 野 勇

サークル ゴリアテボックス
Goliath Box

当作品の文章、画像等の無断転載、また複製やネット共有へのアップロードなどを禁止します。
